

令和6年度 九州老人福祉施設職員研究大会（宮崎大会） 開催要綱

1 大会テーマ

『 持続可能な施設運営と未来への展望 』 ～ 宮崎からのチェンジ ～

2 趣 旨

近年、少子高齢化による人材不足、感染症対策や物価高騰などによる収支状況の悪化が深刻さを増しています。そのような中、経営改善・生産性の向上に向けた ICT・介護ロボットの活用や科学的介護を基本とした効果的・効率的なサービスの提供、人材確保に向けた外国人労働者の受入れ、感染症や災害に対するリスクマネジメントの常態化など、人と人が直接かかわる私たちのサービスの在り方は大きな転換期を迎えています。

高齢者福祉に携わる私たちは、これからどのような介護を通して、福祉の未来を築いていけば良いのでしょうか。

私たちは、これからの時代・環境の中でも的確に利用者や地域のニーズを捉え、各地域で安定したサービスを提供していくために、今一度、私たちの施設、そして、そこで働く職員が地域の中で信頼され続ける介護の在り方を考えていく必要があります。

このような状況を踏まえ、本研究大会は、『**持続可能な施設運営と未来への展望～宮崎からのチェンジ～**』をテーマとし、九州各地区の研究発表を共有することで、九州全体の結束力を活かし、高齢者福祉の安定・発展に向けた未来への展望を描くことを目的として開催します。

3 主 催

九州社会福祉協議会連合会 九社連老人福祉施設協議会
宮崎県社会福祉協議会 宮崎県老人福祉サービス協議会

4 共 催

公益社団法人全国老人福祉施設協議会

5 後 援

宮崎県、宮崎市（予定）

6 期 日

令和6年10月31日(木)～11月1日(金)

7 会 場

フェニックス・シーガイア・リゾート シーガイアコンベンションセンター
(宮崎県宮崎市山崎町浜山)

8 定 員

1,000名

9 参加対象

- (1) 老人福祉施設、通所介護事業所の役職員
- (2) 県市区町村行政機関の職員
- (3) 県市区町村社会福祉協議会の職員
- (4) その他関係者(訪問介護事業所、グループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所 等)

10 日 程

1 日 目 10/31(木)	12:00 13:00 :40 14:10 :50 15:10 16:40 17:00 18:00									
			受 付	式 典	基 調 講 演	行 政 説 明	休 憩	記 念 講 演	次 期 開 催 県 あい さ つ	運 営 委 員 会
2 日 目 11/1(金)	8:45 9:30 12:15									
		受 付	研 究 部 会	散 会						

○1日目 — 10月31日(木):式典・全体会 (4階 サミットホール)

日 程	開始時間	詳 細
受 付	12:00	12:40～ オープニングアトラクション
開会式典 (40分)	13:00	開会のことば・主催者挨拶・表彰授与式・来賓挨拶紹介
基調講演 (30分)	13:40	公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
行政説明 (40分)	14:10	厚生労働省
休憩 (20分)	14:50	
記念講演 (90分)	15:10	「復活!その先へ…」(仮題) 元プロ野球選手、野球解説者・評論家 清原 和博 氏
次期開催県 挨拶	16:40	鹿児島県老人福祉施設協議会 会長
運営委員会	17:00	出席者:運営委員長・運営委員・座長・その他係員

<記念講演講師> 野球解説者・評論家、タレント、YouTuber 清原 和博 氏 プロフィール

昭和42年8月18日大阪府岸和田市生まれ。PL 学園高等学校在籍中、4度の甲子園優勝に貢献。甲子園大会通算13本塁打は歴代一位。

昭和60年10月、プロ野球ドラフト会議で、6球団競合の末「西武ライオンズ」から一位指名を受け入団。ルーキーイヤーから大活躍し、この年の新人王を獲得。以後、一塁手、4番打者として、西武「第2次黄金時代」を築く立役者となる。平成8年11月フリーエージェント(FA)権を行使し、読売巨人軍に入団。平成17年11月読売巨人軍を退団し、オリックスバファローズに入団。平成19年10月現役引退。

その後、野球解説者・評論家、タレントとして活動。平成28年2月覚せい剤取締法違反(所持)等で逮捕・起訴。令和2年、執行猶予が明けたことで活動再開し、現在に至る。

【プロ野球選手時代の主なタイトルと受賞歴】

・最高出塁率2回 ・最高勝利打点1回 ・新人王 ・ベストナイン5回 ・日本シリーズ MVP3回
 ・オールスター戦 MVP7回(回数は歴代一位) など多数。

【その他の受賞歴】 ・岸和田市民栄誉賞 ・ベストファーザー賞 in 関西 など



○第2日目 — 11月1日(金):研究部会

研究部会	9:30	8研究部会 (12時終了予定)
------	------	-----------------

※8つの研究部会で、9時30分から12時まで各6例の研究発表を行い、優秀賞、奨励賞を選出。

研究部会名	会場	テーマ
第1研究部会	4階 天瑞	「科学的介護の実現と推進」
第2研究部会	4階 樹葉	「高品質な施設サービスに向けた業務改善」
第3研究部会	4階 天蘭	「地域における社会福祉法人・施設の公益的活動の実践」
第4研究部会	4階 天玉	「人材確保における採用戦略、定着に向けた実践」
第5研究部会	3階 海峰	「『医療・介護・地域』多職種連携によるケアの実践」
第6研究部会	3階 瑞洋	「在宅サービスの実践と課題」
第7研究部会	2階 オーチャード	「軽費・ケアハウスの実践と課題」
第8研究部会	2階 ファウンテン	「養護老人ホームの実践と課題」

※各研究部会の会場は、参加申込状況により、変更することがあります。

11 大会運営

- (1) 大会は、全体会及び研究部会をもって構成する。
- (2) 全体会は、式典・基調講演・行政説明・記念講演で構成する。
- (3) 研究部会には、運営委員、発表者を置く。

12 研究発表

- (1) 研究発表は、各県から推薦するものとする。
- (2) 発表時間は、1人15分程度とする。
- (3) 各研究部会において、参加者の投票により特に優秀な発表者を選出し表彰する。
- (4) 発表者は、所定様式に抄録をまとめ(Word様式、1発表1枚)、8月2日(金)までに各県・市老人福祉施設協議会事務局へ提出すること。
- (5) 提出された抄録原稿は、大会事務局では校正せず、そのまま大会資料としてダイレクト印刷(白黒印刷)をするので個人情報及び誤字・脱字等に注意するとともに、鮮明なものを提出すること。
なお、提出された原稿(写真等を含む)は返却しない。
- (6) 抄録原稿とは別に、大会当日の発表用のデータを作成し、9月30日(月)までに各県・市老人福祉施設協議会事務局へ提出すること。
- (7) 各県・市老施協事務局は、抄録原稿を8月20日(火)までに、また発表用データを10月7日(月)までにとりまとめ、大会事務局(宮崎県老サ協事務局)へ提出すること。
なお、発表施設が発表データ資料をUSB等で当日持参する場合は、10月7日(月)までに大会事務局へ連絡すること。

13 表彰

- (1) 九州社会福祉協議会連合会会長表彰を、別に定められた顕彰規程により、全体会において行う。
各施設において、誤字・脱字、勤続年数の算定等を確認したうえで、各県・市老施協事務局へ8月9日(金)までに推薦書を提出するものとする。
- (2) 各県・市老施協事務局は、各県社協と調整のうえ、顕彰規程に基づく被表彰者の推薦を、8月20日(火)までに大会事務局(宮崎県老サ協事務局)へ提出するものとする。

14 参加費

- (1) 大会参加費 1人 13,750円(内 消費税(10%) 1,250円)
／ 非会員 1人 19,250円(内 消費税(10%) 1,750円)
※会員とは、九社連老人福祉施設協議会の正会員及び準会員をいう。
※会員施設に属する法人内のグループホーム、小規模多機能型施設、訪問介護事業所については、1人 13,750円(内 消費税(10%) 1,250円)とする。
- (2) 参加費は、後日、名鉄観光サービス(株)宮崎支店が各参加施設へ請求書を送付するので、その内容に基づき、指定の口座へ振込むこと。振込みのない参加は無効とする。
なお、申込み後の参加費は返金しない。また資料の請求があれば、後日大会資料を送付する。

15 参加・宿泊等の申込み

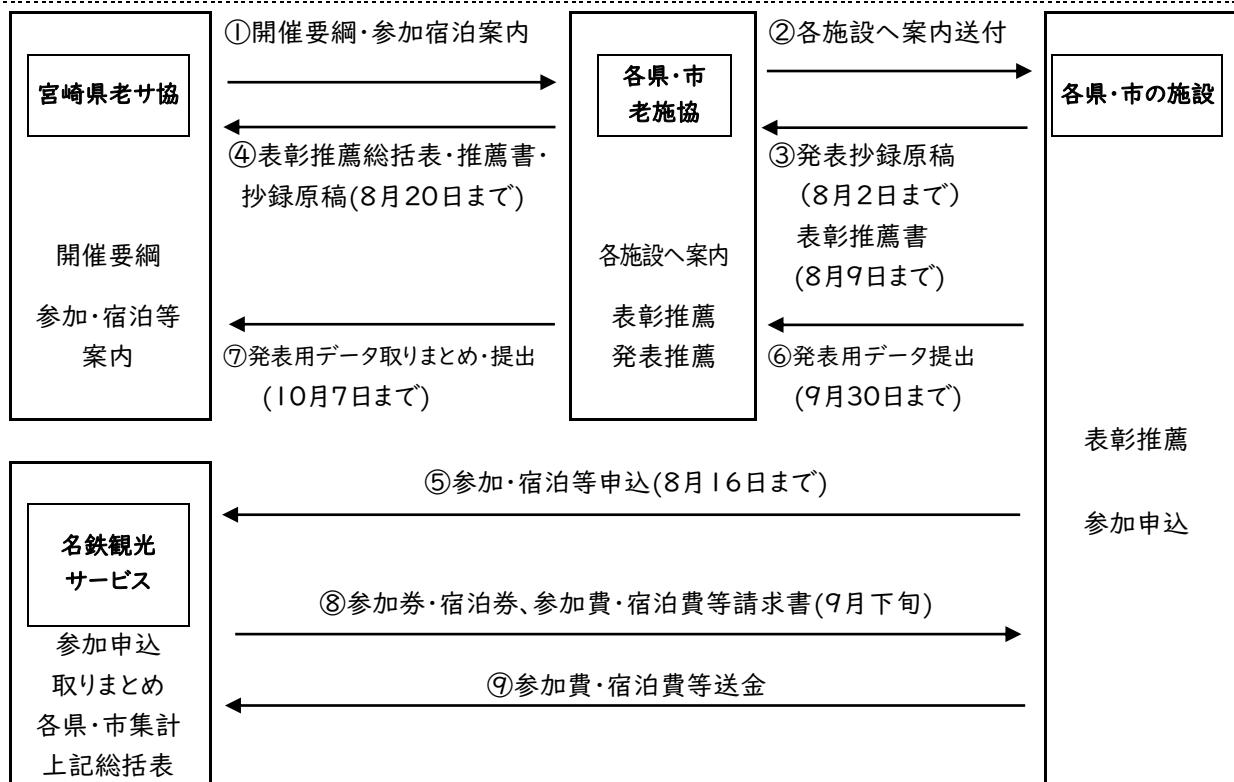
- 今大会の参加・宿泊の斡旋並びに取りまとめ等については、名鉄観光サービス(株)宮崎支店が行う。
- (1) 各参加施設等は、別添「参加・宿泊等の御案内」を確認の上、参加申込画面(下記参照)から8月16日(金)までに申し込むものとする。
【参加申込画面URL】
< <http://www.mwt-mice.com/events/m-rousakyo2024> >
 - (2) 希望研究部会は、会場の都合で第1希望に入れない場合も想定されるので、必ず第3希望まで記入するものとする。

- (3) 大会期間中は有料のシャトルバスを運行する予定。利用希望者は参加申込と併せて必ず事前に申し込むこと。
- (4) 参加申込者には事前に参加券等を発行し、大会当日資料と引き換える。
- (5) 参加費・宿泊費等は、後日、名鉄観光サービス(株)宮崎支店から各参加施設へ請求書を送付するので、その内容に基づき、指定の口座へ振込むこと。

16 個人情報の取扱い

- (1) 本大会での個人情報の取扱いについては、大会運営に関する業務以外の目的には使用しないものとする。
- (2) 「施設名」・「氏名」・「職種名」・「参加研究部会」・「役割」を掲載した参加者名簿を作成し、大会資料として配布する。

17 申込み等の主な流れ



18 大会事務局

宮崎県老人福祉サービス協議会 事務局 (担当:黒木・脇田・栗野)
 〒880-8515 宮崎市原町2-22 宮崎県福祉総合センター本館3階
 宮崎県社会福祉協議会 地域福祉部 施設支援課
 電話 0985-22-3380 ファックス 0985-23-3160

19 宿泊等斡旋業者 (大会参加・宿泊等の申込み先)

名鉄観光サービス(株)宮崎支店 (担当:出口・植村)
 〒880-0001 宮崎市橘通西2-4-20(アクア宮崎ビル)
 電話 0985-26-1414 ファックス 0985-20-7355

【研究部会テーマ趣旨・ポイント】

第1研究部会	テーマ「科学的介護の実現と推進」
<p>〔趣旨〕</p> <p>『科学的介護情報システム』(LIFE)の導入から4年。介護現場では、データ提出とフィードバックの活用による「PDCAサイクルの推進」や「ケアの質の向上」を図る取組がなされています。</p> <p>その結果、現場の革新や科学的介護の実践が進むとともに、より効果的・効率的な専門性の高い介護サービスの提供が求められるようになりました。つまり、エビデンスに基づいて改善されたケアプランによるケア実践の構築が、より必要とされています。</p> <p>本研究部会では、エビデンスに基づいた介護のあり方について、取り組むべきことを明確にし、介護新時代を見据えて研究します。</p>	
<p>〔ポイント〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学的介護情報システム(LIFE)の活用 ・記録業務(ペーパーレス化)の効率化 ・記録活用とアウトカム評価方法 ・AI、ICT、介護ロボット導入のノウハウと費用対効果 ・サービスの質の向上と福祉・介護機器の活用 ・ICT、介護ロボット(補助金等)活用の取組 ・安眠支援に向けた夜間業務 ・ADL改善やQOL向上に向けた取組 ・職員間の情報の共有、一元化 	

【発表①】鹿児島県:特別養護老人ホームアルテンハイム鹿児島

「科学的根拠に基づいた排泄支援への取り組み(仮)」

【発表②】沖縄県:特別養護老人ホーム読谷の里

「車いすでどこまでも」

【発表③】福岡県:特別養護老人ホームことぶきの森

「データを活用したケアの質の向上に向けた取り組み(仮)」

【発表④】北九州市:特別養護老人ホーム美咲ヶ丘

「ICT化に基づく業務課題への取り組みについて」

【発表⑤】福岡市:特別養護老人ホーム七樹苑

「ICTを活用した他職種連携」

【発表⑥】大分県:特別養護老人ホームむさし苑

「食べる事は生きる事」

第2研究部会	テーマ「高品質な施設サービスに向けた業務改善」
<p>〔趣旨〕</p> <p>利用者の高齢化・重度化、新型コロナウイルス感染症などの感染予防、医療ニーズに対する注意深い配慮の必要性などにより、老人福祉施設はこれまで以上に高い専門的ケアが求められています。</p> <p>このような状況から、その人らしく、個人の有する能力に応じた支援を提供するためには、断片的な介護に陥らない仕組。いわゆる、「多職種協働」によるケアの実践と科学的根拠に基づいた高品質な介護サービスの提供が、今まで以上に求められています。</p> <p>本研究部会では、各施設の実践を通し、排泄・食事・入浴・リハビリ・夜間時など、様々な場面における業務の現状と課題を探り、高品質な施設サービスを提供するための取組について研究します。</p>	
<p>〔ポイント〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症のケア実践 ・看取り介護 ・コロナ禍におけるフレイル予防の取組 ・ノーリフティングケアの取組 ・医行為（喀痰吸引、経管栄養）の取組 ・利用者の要望・状態に合わせた排せつ、入浴業務 ・口腔ケアの取組 ・栄養ケアマネジメントの推進と実践 ・よりおいしい食事のための給食委託業者との連携 ・調理法や調理業務の工夫 ・楽しい、ユニークな食事への挑戦 ・機能訓練、アクティブの取組 ・人員不足を感じさせない業務体制 	

【発表①】沖 縄 県:特別養護老人ホームなごみの里

「腸活でQOLの向上を目指す」

【発表②】大 分 県:特別養護老人ホーム偕生園

「一筋縄ではいかない!介護現場の働き方改革」

【発表③】北九州市:特別養護老人ホームあじさい

「特別養護老人ホームにおける看護体制強化 ～看護師としての役割を果たすために～」

【発表④】福 岡 市:特別養護老人ホームアットホーム博多の森

「しょうごさん 五島(ふるさと)へ帰る ～90歳 施設から自宅へ～」

【発表⑤】佐 賀 県:特別養護老人ホームあしはらの園

「協力医療機関との情報共有(仮)」

【発表⑥】長 崎 県:特別養護老人ホームふるさと

「週2回の口腔ケアで肺炎予防 ～口腔ケアで救える命がある～」

第3研究部会	テーマ「地域における社会福祉法人・施設の公益的活動の実践」
<p>〔趣旨〕</p> <p>少子高齢化による人口減少や過疎化の進行等に伴い、地域社会を支える組織や人材の不足も深刻化しています。更に、新型コロナウイルス感染拡大以降、人の交流の減少に伴う孤立者や生活困窮者の増加等、地域社会の抱える生活課題は増加傾向にあります。私たち社会福祉法人には、これらの地域の抱える課題に対応すべく、これまで以上に重要な役割や実践が求められています。</p> <p>本研究部会では、法人・施設のセーフティーネットとしての機能があらためて問われる中、今一度、社会福祉の原点に立ち返り、地域社会に求められる社会福祉法人・施設の役割、実践等について研究します。</p>	
<p>〔ポイント〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs 推進の取組 ・既存の社会資源の地域住民に向けた活用 ・地域共生社会の実現のための取組 ・地域行政と福祉関係者との地域活性化に向けた連携 ・災害時の地域支援活動 ・クラスター発生時の施設間の応援体制について ・社会福祉法人の経営戦略 ・生活困窮者支援への取組 ・法人経営の透明性の確保並びに合理化、適正化の取組 ・小規模法人のネットワーク化による経営効率化や社会福祉法人の連携活動等 	

【発表①】沖 縄 県:特別養護老人ホーム乙羽園

「社会福祉法人・施設の地域貢献と公益的取り組み ～地域包括ケアシステムの構築・身近なところから、今できること～」

【発表②】北九州市:特別養護老人ホーム松和園

「認知症カフェを通しての地域交流(仮)」

【発表③】福 岡 市:特別養護老人ホームつくしの里

「事業所・行政・企業が三位一体となった地域共生社会の実現」

【発表④】佐 賀 県:特別養護老人ホーム真心の園

「私たちが考えたありたい姿への取り組み(仮)」

【発表⑤】長 崎 県:特別養護老人ホームゆうあいホーム横尾

「ノーフティングケア介護現場での導入と効果 ～利用者・介護者の負担軽減と介護ロボットの普及～ (仮)」

【発表⑥】熊 本 県:特別養護老人ホーム白川の里

「身寄りがない利用者への意思決定支援 ～人生の終末期における意思決定に関するチームケアとは～ (仮)」

第4研究部会	テーマ「人材確保における採用戦略、定着に向けた実践」
<p>【趣旨】</p> <p>全国的に、人材のグローバル化や高齢化等大きな変革期を迎えている中、介護人材の確保や育成は、多くの老人福祉施設共通の課題です。そして、今後さらに人材の確保が難しくなると予想される中、高齢者施設の安定した運営を行うためには、当然、それを担う人材の確保が必要不可欠です。</p> <p>そこで、介護の魅力について、より適切で効果的な発信をしていくことや、外国人労働者の活用、福利厚生、人事考課、職員教育などの検討が重要となってきています。</p> <p>本研究部会では、このような状況の中で人材確保及び定着にスポットを当て、今後の老人福祉施設における安定した施設運営への取組について研究します。</p>	
<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保の取組 ・人材育成の取組 ・職場の良好な人間関係作りの取組 ・働きやすい職場環境の取組 ・IOT、AIの活用と生産性向上の取組 ・外国人労働者への教育体制、研修体制 ・福利厚生 ・求人 ・SNSの活用 ・人事考課 ・キャリアアップ ・フレックス勤務 等 	

【発表①】北九州市:特別養護老人ホームもみじ苑

「人材育成 ～多様性を認め合う～」

【発表②】福岡市:特別養護老人ホームシエル名島

「明るい職場づくりにむけて(仮)」

【発表③】佐賀県:特別養護老人ホーム長生園

「人材育成・定着に向けた取り組み ～働きやすい職場になればいいのに～」

【発表④】長崎県:特別養護老人ホーム淡淡荘

「淡淡荘・介護テクノロジーの運用術・DX化への挑戦 ～科学的介護・自立支援介護を成功するために～」

【発表⑤】熊本県:指定介護老人福祉施設るり苑

「眠りSCANでひも解く生活リズム ～気持ちの良い「おはよう」を目指して～(仮)」

【発表⑥】沖縄県:日赤安謝福祉複合施設

「介護人材の確保・育成・定着・処遇改善の取り組み ～明るい未来へ～(仮)」

第5研究部会	テーマ「『医療・介護・地域』多職種連携によるケアの実践」
<p>【趣旨】</p> <p>世界的に新型コロナウイルスが猛威を振るい、重症化リスクの高い高齢者をケアする施設においては、医療ニーズへの期待とより専門的な感染症への対応が重要視されています。加えて、近年の慢性的な人材不足の中では、多職種連携による高齢者を支える仕組みづくりが今後ますます重要になってきます。</p> <p>また、「地域包括ケアシステム」や「地域共生社会」の推進に向けて、地域の特性を踏まえ、地域の社会資源として老人福祉施設が果たす役割についても考えていかなければなりません。</p> <p>本研究部会では、医療・介護・地域との連携の取組や課題について研究します。</p>	
<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重度化に伴う医療ニーズへの取組 ・医療ニーズにおける家族との連携 ・新型コロナウイルス等感染症における課題と今後の取組 ・さまざまな感染症に対する施設の取組 ・地域公益活動の取組 ・多職種連携による施設ケアの更なる取組 ・施設の社会化、地域化の取組 ・地域共生社会の構築に向けた取組 	

【発表①】福 岡 市:特別養護老人ホーム城南の杜

「最期まで「その人らしく生きる!」を支えるチームケア(仮)」

【発表②】福 岡 県:特別養護老人ホーム唐孔雀園

「多職種で取り組む経口維持から見えてきた日常生活アプローチ(仮)」

【発表③】熊 本 県:特別養護老人ホームこぼり苑

「排泄障害のある高齢者に対する排泄ケア ～自立支援に基づく多職種連携アプローチ～(仮)」

【発表④】大 分 県:グループホームさわやかクラブ鈴鳴荘

「1+1=∞」

【発表⑤】宮 崎 県:特別養護老人ホームさくら苑

「高齢者の住みやすい街づくり ～創立者が国富町に描いた夢をかたちにする～」

【発表⑥】鹿児島県:デイサービスセンター縁側

「医療ニーズにおける家族との連携・重度化に伴う医療ニーズへの取り組み(仮)」

第6研究部会	テーマ「在宅サービスの実践と課題」
<p>〔趣旨〕</p> <p>在宅ケアは、いつでも気軽に相談できる体制を基本として、介護と医療が連携して24時間・365日安心を提供する体制が求められています。2024年介護保険制度改正がありました。今後は、高齢者数がピークを迎える2040年頃の社会保障制度を展望しながらの事業所運営が必要となってきます。具体的には、現役世代(担い手)減少が最大の課題となり、一方、高齢者の「若返り」が見られ、就業率も上昇していきとされています。</p> <p>今後、誰もがより長く、元気に活躍できるよう、①多様な就労・社会参加の環境整備、②健康寿命の延伸、③医療・福祉サービスの改革による生産性の向上、④給付と負担の見直し等による社会保障の持続可能性の確保に国も取り組んでいきます。</p> <p>このような状況に合わせて、私たち在宅サービスの在り方も変化していかなければなりません。</p> <p>本研究部会では、在宅サービスの継続性、地域単位でのサービス提供システムの在り方、科学的介護、効果的・効率的な支援、自立支援・重度化防止等の在宅サービスの実践、課題について研究します。</p>	
<p>〔ポイント〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防サービスの取組 ・ICTを活用した情報の共有 ・感染症対応の取組 ・フレイル対応の取組 ・在宅サービスの多様な働き方の工夫 ・認知症ケアの取組 ・感染症と事業継続 ・科学的介護(LIFE)及び各種加算算定への取組等 ・関係機関との連携、事業所間の連携 ・保険外サービスの取組 	

【発表①】佐賀県：なかばる紀水苑

「家での生活をあきらめないで」

【発表②】長崎県：サンホーム江上

「4年ぶりの交流・講習会等の実践について ～社会参加をサービスの満足向上に寄与～(仮)」

【発表③】福岡県：デイサービスセンター菜々

「共に生きる～私たちが誰かを笑顔にする～(仮)」

【発表④】宮崎県：皇寿園デイサービスセンター

「連絡業務の効率化を目指して!組織力を生かしたアプリ開発による生産性向上への挑戦!!」

【発表⑤】鹿児島県：奄美佳南園 訪問介護事業所

「7年後の姿」

【発表⑥】沖縄県：デイサービスセンターゆりヶ浜

「利用者の個別ケア実践と家族支援(仮)」

第7研究部会	テーマ「軽費・ケアハウスの実践と課題」
<p>〔趣旨〕</p> <p>サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム等、高齢者が選択できる施設の種類や数は増加傾向にあります。一方で、高齢者施設ごとの役割や違いが分かりにくくなり、軽費・ケアハウスでは、入居率の低下が叫ばれるようになってきました。</p> <p>このような状況を踏まえると、軽費老人ホーム及びケアハウスはもう一度施設の役割を再確認し、今まで培ってきた様々な活動や支援内容等とともに、その必要性を広く地域社会に示していかなければなりません。</p> <p>本研究部会では、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年を目前に、改めて軽費・ケアハウスの果たすべき役割と実践並びに課題について共有し、議論を深め、地域共生社会における軽費・ケアハウスの将来の展望について研究します。</p>	
<p>〔ポイント〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽費老人ホーム・ケアハウスの現状と課題 ・ケアハウスにおける特定施設の課題 ・介護保険以外の生活支援サービスの取組 ・地域との交流・連携・情報発信 <p>・選ばれる施設へ向けた取組</p> <p>・介護予防・認知症予防</p> <p>・住まいの多様性</p> <p>・軽費、ケアハウスの広報のあり方</p> <p>・災害・感染症(BCP)への対応等</p> <p>・医療との連携</p> <p>・地域共生社会の実現に向けた取組等</p>	

【発表①】長崎県：軽費老人ホーム建禄園

「笑顔あふれる生活をともに ～十人十色の生活支援～」

【発表②】熊本県：ケアハウスあいこう

「ご入居者の摂食嚥下機能の維持、改善を狙う。～美味しい物は美味しいままに、いつまでも安全に食事を楽しむことができるケアハウスを目指そう～（仮）」

【発表③】大分県：ケアハウスケアマンション創生の里

「WITHコロナ」

【発表④】宮崎県：綾町ケアハウスうるおいの里

「コロナ感染症5類移行後の入居者の心身回復及び新規獲得（仮）」

【発表⑤】鹿児島県：サンファミリーきいれ

「ケアハウスにおける実践と課題（仮）」

【発表⑥】福岡県：ケアハウス明日香園

「地域とつなぐ・ケアハウスの役割」

第8研究部会	テーマ「養護老人ホームの実践と課題」
<p>【趣旨】</p> <p>養護老人ホームは、戦前戦後措置施設としての役割を社会的に担ってきました。近年では、地域包括ケアシステムや地域共生社会の実現及び発展に向けて、更なるセーフティーネットとしての役割が期待されています。現在の入所者は、認知症者、精神疾患者、知的障がい者、触法高齢者そして、要支援、要介護者等、様々な課題を抱えた方々が入所されているのが現状です。今後、更に幅広い高齢者ニーズへの対応、社会的孤立の防止、居場所づくり、生きがいづくりへの対応など、養護老人ホームの果たすべき役割はますます重要なものになってきています。</p> <p>一方、養護老人ホームの措置状況は、措置費の一般財源化と、市町村への権限移譲において、本来措置されるべき高齢者が適切な支援を受けられず、地域によって入所措置の割合に格差が生じています。また、介護（支援）職員の慢性的な不足は、質の高いサービス提供に不可欠な職員研修の実施も困難な状況をまねいています。</p> <p>本研究部会では、そのような養護老人ホームの現状の課題を踏まえ、今後のあるべき姿や養護老人ホームとしての良質なサービスをどのように提供していくべきかについて研究します。</p>	
<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活困窮、精神疾患、認知症高齢者、社会復帰者（刑務所等出所者）等の受入れ ・老人福祉法における養護老人ホームの役割とは <ul style="list-style-type: none"> ・入所者の高齢化、重度化への対応 ・良質なサービスの提供の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉人材の確保、育成、定着に向けた取組 ・養護待機者の掘り起こしのための取組 <ul style="list-style-type: none"> ・養護老人ホームにおける契約入所 ・特定施設の現状 <ul style="list-style-type: none"> ・地域共生社会への取組 ・感染症対策等 ・災害時の地域との連携 	

【発表①】熊本県：養護老人ホームこすもす荘

「Re-start こすもす荘 ～施設集約に伴う変化への取り組み～（仮）」

【発表②】大分県：養護老人ホーム松寿園

「転倒による入院者0（ゼロ）を目指して」

【発表③】佐賀県：養護老人ホーム寿楽園

「養護老人ホームの実践と課題 ～安心安全な住まいの提供について～」

【発表④】鹿児島県：養護老人ホームあけぼの園

「地域と共生する施設を目指して（仮）」

【発表⑤】北九州市：香月老人ホーム

「精神疾患、認知症高齢者等の受入れ」

【発表⑥】福岡県：大川市養護老人ホーム明光園

「ひとりじゃない みんなが家族！ ～身寄りのない人も安心して暮らせる家～」